

まだ自分に子どもがいなかった頃、患者さんの保護者の方に「うちの子、薬服んでくれないんですよ」と言われると、「それは親御さんが真剣に服ませてないということです」と上から目線で答え、こんな工夫やあんな工夫もしたらどうなんだと、高圧的に説明したりしていました。ですが、自分に子どもができ、いざ服ませようとする、まあ服んでくれない。以来、「うちの子、薬服んでくれないんですよ」に対しては、「そうですねえ」という共感から始められるようになったように思います。

今月号の特集は「小児のための医薬品開発の現状と課題」です。2月の末に日本小児科学会（小児医薬品開発ネットワーク）・小児治験ネットワーク・小児臨床研究コーディネーター（CRC）部会の共催でシンポジウムが開催されました。小児に対する医薬品開発にはたくさんのハードルがありますが、われわれ小児科学会、製薬企業、厚生労働省も何とか安全で有効な医薬品を1日でも早く病める子どもたちに届けられるよう努力しています。その悪戦苦闘の様子が少しでもご理解いただければと思い、この特集を企画しました。それぞれの立場で現状と課題について述べていただきましたが、皆さんの思いはきわめて純粋に子どもたちの健康を考えていることがおわかりいただけるものと思います。

「綜説」は2篇、頸部リンパ管腫に対する最新の集学的治療と骨形成不全症の病型分類、症状、治療を最新の知見に基づいて解説いただいています。どちらもそうしばしば経験するわけではないものの、必要な知識かと思います。「診療」では、学校心臓検診でしばしば経験する無症候性心室期外収縮の心機能への影響について述べられています。ちょっと心配になることもある所見ですので、有意義な考察だかと思えます。「小児保健」では、小児眼科の立場から9～10か月児健診における眼科的診察のポイントについて解説いただきました。「症例」は先天性胆道拡張症の胆道穿孔、ヒトパラインフルエンザ感染症に伴う発疹、新生児の胃食道逆流に伴う徐脈発作についての3篇です。どれも非常に興味深い報告です、ぜひ一読ください。

医学の進歩にはさまざまな要素がありますが、なんといっても医薬品の開発が大きく貢献しています。分子標的薬、生物学的製剤、遺伝子を標的とする薬剤などなど、一昔前では治療不可能だった病気にも光があたってきました。でも、せっかくの新薬も子どもたちに使えないのでは意味が半減してしまいます。治験の難しさや費用対効果の問題などいろいろありますが、われわれが率先して乗り越えていけるよう努力していきたいものです。（伊藤 保彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第63巻 第4号 4月号

2022年4月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,080円（本体2,800円＋税10%）

年間購読料金

定価47,630円（本体43,300円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。